

大切な家族をフィラリア症はもちろん、多効能で守る。

犬糸状虫症予防・ノミ卵及び幼虫発育阻害・
消化管内線虫駆除剤 動物用医薬品 要指示薬

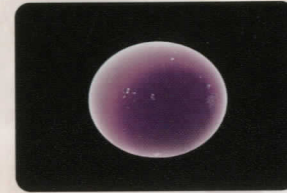
システック®



システックは室内環境下に生息するノミに効果があります。

ノミは快適な室内環境で成長し驚異的に繁殖します。

乾燥・低温・高温に強く、
殺虫剤に対する抵抗力
があります。



卵

(約0.5mmの長さで楕円形)

- ▶ 雌の成虫は1日に約20個の卵を産み落とします。
- ▶ 成虫が産卵した卵は環境中に落下します。
- ▶ 卵は約3-4日で孵化します。

掃除機での除去率は5%
以下と言われています。



幼虫

(2mmから4mmに成長)

- ▶ ゴミなど有機物や成虫の糞を食べて成長します。
- ▶ 幼虫の期間は約7-18日、その後2回脱皮してさなぎになります。

乾燥・低温・高温に強く、
殺虫剤に対する抵抗力
があります。



さなぎ

- ▶ 糸をはいて繭をつくります。
- ▶ さなぎの繭にごみなどが付着し、周囲の環境に同化しやすい。
- ▶ 二酸化炭素、温度、振動によって羽化します。
- ▶ 羽化に適切な環境でない場合、10日、最長で約1年間生存します。(越冬することもある)

成虫

生存期間は、およそ
10~20日程度



産卵

1日に平均10~20個
を産卵。卵は飼育環境中
に落下

さなぎ

約10日ほどで、成虫へと
羽化。さなぎの状態では1年
近く生存可能

ノミの問題の95%は
成虫予備軍です。

幼虫

2回の脱皮を経て、7~18日で
まゆを作りその中でさなぎになる。

産卵後
産卵後3~4日で幼虫
に孵化

システックなら1錠で主要な寄生虫対策が可能です。

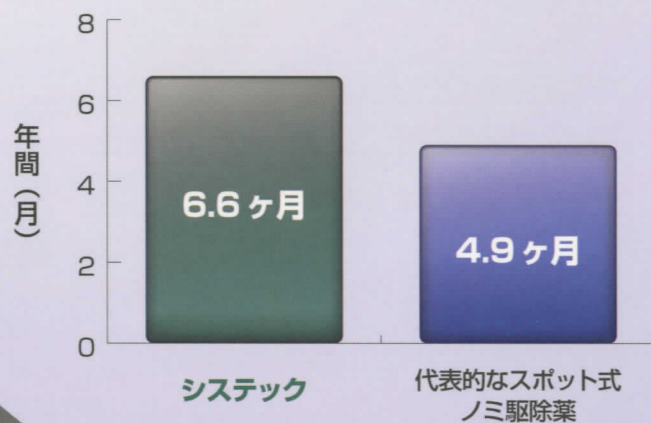
システックは、日本で長期間ご愛顧いただいている信頼のフィラリア予防薬「ミルベマイシンオキシム」に昆虫発育阻害剤(IGR)「ルフェヌロン」を含有する製剤です。そのため1錠でフィラリア予防と同時に犬回虫、犬鉤虫、犬鞭虫の駆除、さらにノミ対策が可能です。

	 犬糸状虫症	 犬回虫	 犬鉤虫	 犬鞭虫	 ノミ対策
システック (ミルベマイシンオキシム+ルフェヌロン)	○	○	○	○	○
ミルベマイシンA (ミルベマイシンオキシム)	○	○	○	○*	×
イベルメクチン + パモ酸ピランテル	○	○	○	×	×
モキシデクチン	○	×	×	×	×

*鞭虫駆除には0.5~1.0mg/kgが必要

システックはノミ対策の投与月数の延長に貢献します。

一般的に「スポットタイプのノミ駆除薬のコンプライアンスは低い」と言われていますが、これはオーナーさんにとっては、ホームセンターやネットで販売されているOTC製品と動物病院で処方される薬の区別が付きにくく、動物病院で「ノミ対策」をしなければならないという意識が低いためと考えられます。

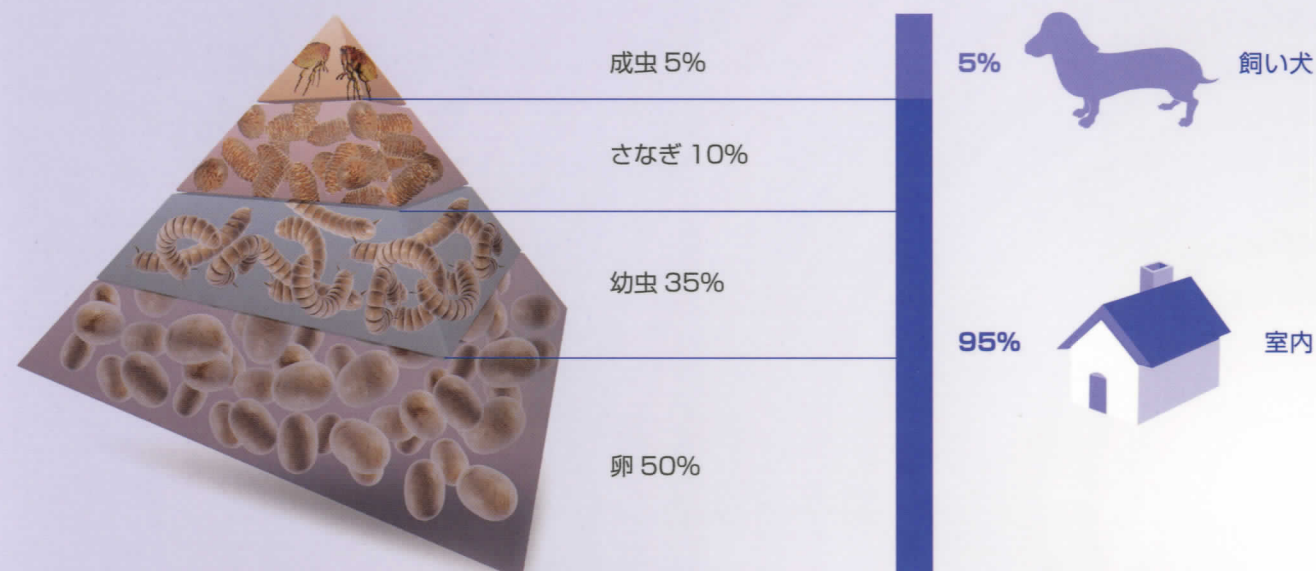


システックはフィラリア予防と同時にノミ対策が可能な「要指示医薬品」ですので貴院でのノミ対策の処方月数の延長に貢献します。

出典:2010富士経済

システックは長期的なノミ対策で優れた効果を発揮しました。

ノミの成虫駆除剤だけではわずか5%のノミ対策を行っているにすぎません。95%のノミは室内環境下に生息し再寄生の機会を伺っているのです。



出典: Dryden MW, Brown H, Buck S, et al. Giving pets effective long-term protection against flea infestation. Vet Med. June 1998;Suppl.S:16-8.

システックの経口IGRの利点

- 1 経口薬なので投与後、速やかに体内に分布し、全身くまなくしっかり効きます。
- 2 体内から薬が届くのでトリミングや頻回のシャンプーをしても効果が落ちる事はありません。
- 3 体表に薬剤が残らず、被毛のべたつきがなく抱っこや一緒に寝ても人への薬剤の付着がありません。また多頭飼育のご家庭でも薬剤を舐めあう心配がありません。
- 4 皮膚への刺激がありません。

システックで毎月フィラリアを予防するメリット

ミルベマイシンオキシムは、投与30日前に感染した幼虫を殺滅します。

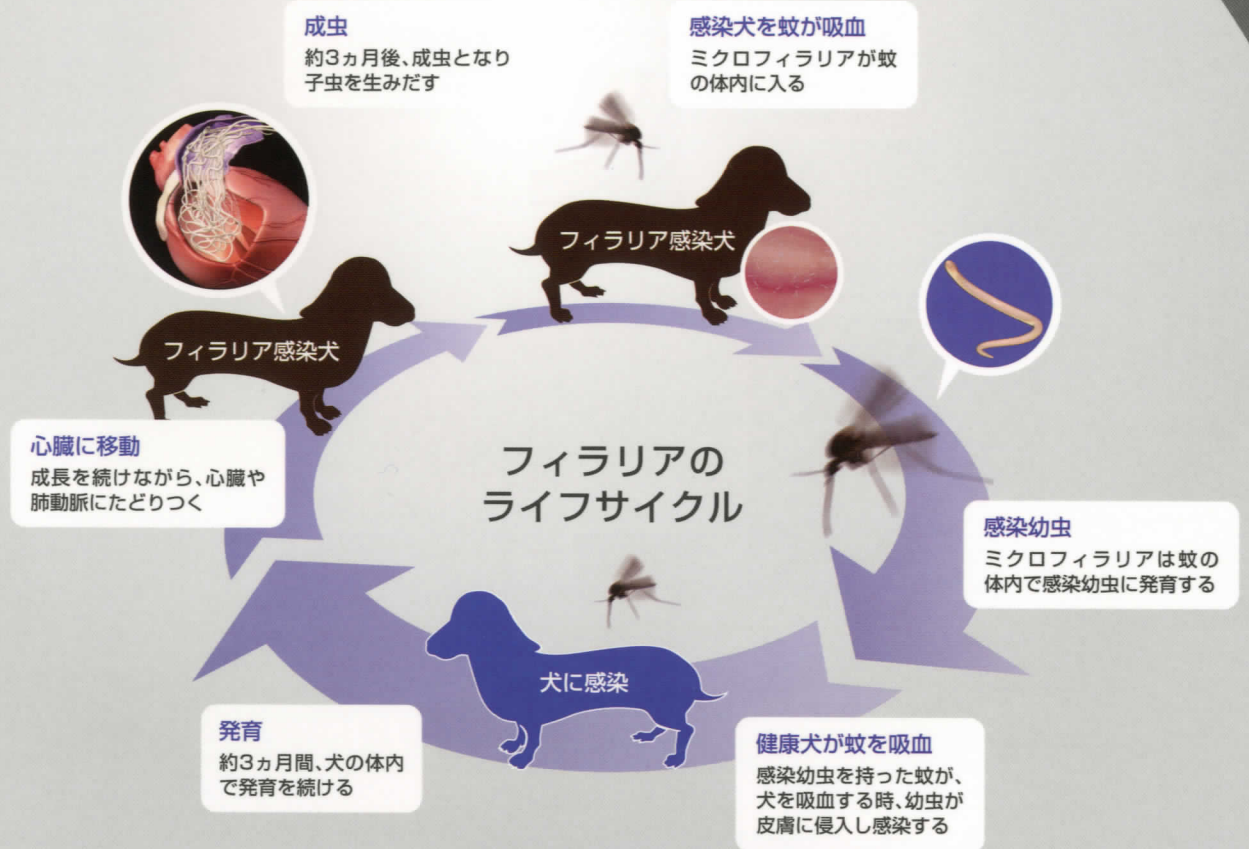


コンプライアンスが十分でないとフィラリア症に感染する恐れがあります。シーズン中に投与を忘れるとひと月投与していないのと同程度のリスクがあります。



ミルベマイシンオキシムの高い駆虫効果は、猫用消化管内寄生虫駆除薬ミルベマックスの有効成分として使用されている事からも証明されています。

ミルベマックス
フレーバー錠



消化管内線虫の虫卵はズーノーシスリスクがあります。

犬回虫や犬鉤虫などの消化管内線虫は大量に虫卵を排泄し、人に感染するとさまざまな病害を引き起こすズーノーシスリスクがあります。



左：回虫の幼虫移行症
右：鉤虫の幼虫移行症